

平成25年10月10日

報道関係者 各位

島原城薪能～子ども狂言10周年記念舞台～のご案内

このことについて、今年で島原子ども狂言は10周年を迎えます。それを記念して、今年の島原城薪能では、1時間の出演時間を子ども達だけで演じる予定となっております。子ども達も晴れの舞台に向けて、5月から毎月2回練習を重ねてまいりました。

また、子ども狂言ワークショップ講師でもある、能楽師狂言方和泉流 野村万禄先生による、子ども狂言10周年記念祝狂言も予定されております。

つきましては、薪能の番組表とチラシ（子ども狂言版）をお送りしますので、当日ぜひご来臨いただきますようお願いいたします。

記

1. 行事名 島原城薪能
2. 日時 平成25年10月19日（土） 子ども狂言は午後5時
3. 会場 島原城天守閣前広場 薪能特設舞台



有明海にひらく湧水あふれる
火山と歴史の田園都市 島原

担当：文化スポーツ・振興グループ

林田 崇

電話：0957-68-5474（内線662）

E-mail：t-hayashida@city.shimabara.lg.jp



第34回しまばら温泉

不知火まつり

平成25年10月19日(土)・20日(日)

会場・島原城天守閣前広場

事務局 しまばら温泉不知火まつり振興会
〒855-0045 島原市上の町 537 島原市役所
観光・ジオパークグループ内
TEL0957(63)1111 FAX0957(62)8006

島原城薪能振興会
〒855-8550 島原市高島 2-7217
島原商工会議所内
TEL0957(62)2101 FAX0957(64)3783
<http://shiranui.shimabara.ne.jp/>

第31回

入場無料

島原城薪能

10月19日(土)

午後4時開場・午後5時始曲

午後8時45分終曲予定

- しまばら狂言〈島原子ども狂言〉
- ミス島原披露(お姫さま)
- 神事 火入れの儀
- 島原子ども狂言10周年記念 祝狂言
和泉流狂言 末広かり
- 金剛流舞囃子 小袖曾我
- 大蔵流狂言 口真似
- 金剛流能 猩々

10月20日(日)

- しまばらガマダス 阿波踊り大会
- 歴史文化市中パレード





第一部

島原城薪能 島原子ども狂言十周年記念

日時 平成二十五年十月十九日(土)午後五時始曲

会場 島原城薪能舞台(島原城天守閣前広場に特設)

入場料 無

詳しくは事務局へお問い合わせ下さい
●事務局/島原城薪能振興会
島原市高島二丁目
七二七島原商工会議所内
TEL 〇九五七(六二) 二一〇一
FAX 〇九五七(六四) 三七八三
E-mail takiginou@shimabara.jp
http://takiginou.shimabara.jp/



番組

- 小謡 「鶴亀の舞」
- 小舞 「掛川」
- 小舞 「兔」
- 小舞 「柳の下」
- 和泉流狂言 「しびり」
- 和泉流狂言 「泉山伏」
- 小舞 「柳の下」
- 和泉流狂言 「魚説法」
- 和泉流狂言 「釣つりよ」
- 島原子ども狂言十周年祝狂言 「末広がり」
- 和泉流狂言 「末広がり」

(八千代座狂言教室特別出演)

島原ではずっと昔から、島原城で能と狂言が行われていました。「島原子ども狂言ワークショップ」ではこの城下町・島原ならではの伝統文化をぜひ子どもたちにも伝えようと、江戸時代より島原に能と共に伝わった狂言を体験しながら、島原ならではの歴史や文化を学び伝承していくために、和泉流狂言師・野村万緑さんの指導のもと、島原城を背景にした島原城薪能の舞台での発表を目標に、毎年稽古を重ねてきました。二〇〇七年の火山都市国際会議島原大会や、二〇二二年のジオパーク国際ユネスコ会議の舞台では、世界各国から集まられた海外のお客様の前で、日本の素晴らしい伝統芸能としてご披露し大絶賛を浴びました。今年には記念すべき十周年をむかえました。十周年にあたる今年には、島原市内の子どもも二十六名の出演です。これからも、「島原子ども狂言」では島原の歴史と文化をしっかり和継承していきたいと思っております。島原っ子の晴れの舞台にご期待ください。

島原子ども狂言十周年記念 島原狂言「釣つりよ」の解説

昔から庶民により島原で語り継がれてきた狂言を原案に、島原のオリジナル狂言として、島原城資料解説員の松尾卓次氏による脚本と、和泉流狂言師野村万緑氏の演出により、平成十八年に創作されました。

鯛は、淡紅色で、姿が美しく、また「めでたい」に通じることから、縁起のよい魚とされ、祝膳に尾頭付きで用いられる魚です。

島原の九十九島沖はいい漁場で、鯛、がんば(フグ)など多くの魚がとれます。目出度い鯛を釣りに行った太郎冠者は何を釣ってくるのでしょうか。

今年「島原子ども狂言十周年」をお祝いし、これからは島原子ども狂言がますます発展しながら継承され、豊かな島原文化が伝承されていくことを祈念する「鯛つり」です。

和泉流狂言「しびり」の解説

太郎冠者は主人から酒の肴を買って来いと命じられます。しかし、遠くに出かけるのが面倒だと思った太郎冠者は、飯病を思いつきます。主人はすぐに太郎冠者の飯病を見抜いてしまいます。いったいどんな飯病でしょうか？

和泉流狂言「魚説法」の解説

住職の留守中に説法を頼まれた新発意ですが、まだ経文を覚えておらず困ります。そこで幼い頃に親しんだ魚の名前を連ねて談義のように説いて聞かせようとする。

和泉流狂言「泉山伏」の解説

弟の太郎は、山から帰ってきて以来具合が悪いようです。そこで兄は、祈禱をして病を治してくれるよう山伏に頼みます。山伏が祈ると太郎は急に奇声を発します。兄の話によると、太郎は山で泉の菓を下ろした泉の菓にたずらをしたといひます。

そこで山伏は、泉が取り付いたのだと言ひ出し泉の嫌う鳥の印を結んで心不乱に祈り始めます。しかし、具合は悪くなる一方です。一体どうなってしまうのでしょうか？

島原子ども狂言十周年記念 祝狂言

和泉流 狂言

太郎冠者 吉住 講 大鼓 白坂保行 太鼓 西嶋淳子
末広がり 果報者 野村万緑
スツバ炭 光太郎 小鼓 古田知英 笛 浦 政徳



(のむらまろく) 能楽師 狂言方 和泉流 野村 万緑

一九六六年昭和四十一年、東京に生まれる。故野村万蔵(芸術院会員人間国宝)の孫、伯父の初世野村萬(人間国宝)に師事。一九九〇年東京芸術大学音楽学部邦楽科能楽専攻卒業。二〇〇四年より島原子ども狂言ワークショップの講師を務める。社団法人能楽協会九州三役会所属、重要無形文化財総合指定保持者。平成二十二年度福岡県文化賞(奨励部門)受賞。

特別友情出演

山鹿八千代座狂言教室



山鹿八千代座狂言教室は、国指定重要文化財である芝居小屋の八千代座を稽古場として、平成一五年に始まりました。狂言師の野村万緑先生に指導していただきながら、大人と子どもが一緒に学ぶ教室です。高齢の方から幼稚園児までが、八千代座での毎年の発表会を目標に、狂言や舞の稽古を続けています。観る人と演じる者がともに楽しめる狂言を目指して続けていきます。